

## 10年後につながる流れは何かを探るためのマトリックス分析

		サービス化・ソフト化	情報化社会	グローバル化	都市と地域の関係変化とローカリゼーション	少子高齢・シングル社会	環境保護と持続可能な社会	ワーク・ライフ・バランス社会
生活者	環境・意識	デザインのアート化 コンパクトシティ化 「ピン」と「キリ」の差広がる 公共サービス民営化	「知識」の金太郎飴化 キュレーターの重要度アップ 二元論とポピュリズムの終焉 クレームの増加	生活様式の和洋二極化 日本人から世界市民へ アジアの中の日本を意識	移動手段の高速化 都市における自然回帰志向 地域の産業間連携 都市でも人口減 地域コミュニティ再生	健康・予防志向 平均寿命伸びる 出生率低下止まらず 晩婚化・非婚化・孤族化加速 「孤独」と「自由」	節電・省エネ・エコ意識続く 伝統的生活様式見直し 「旬」の意識 システム依存からの脱却	労働時間外の社会貢献活動への参画増加 家族との時間重視傾向
	消費行動	ストーリー・プロセス重視（モノよりコト）加速 「良いもの」「確かなもの」重視 買わずに「交換」「借りる」 「自分の心地よさ」追求 「フォーマルな場」の二極化	ネット・携帯端末消費さらに増加 ヒューマンタッチ・リアル志向への回帰 生活者主導 多機能からシンプル志向へ	個人が世界とネットで繋がる 「品質」重視志向	「近場」志向 商店街再生 「身の丈」消費 地産地消志向 新しい「生協型」出現	ナチュラル志向 将来不安と「今」の満足 健康・予防消費 造「縁」消費 自己の上質化へ投資 量り売り・小分け加速	「使い捨て」から「良いものを長く使う」へ フェアトレード加速 エシカル消費加速 シェア加速・身の丈消費	「痛勤」回避志向 性別消費のボーダレス化加速 レディースプラン消滅 父子消費加速
労働者	仕事意識	学習意識向上 「仕事」と「仕事外」曖昧に	ノマド的コワーキング増加 就職活動、SNSが主流に 「脱」組織志向	マルチリンガル・カルチュラルがスタンダードに 安定志向・内向きも 国際標準化進む	コミュニティビジネス、ソーシャルビジネス増加	大学全入時代によるホワイトカラー志向 終身雇用志向 従業員第一主義	自己実現から社会貢献へ 持続可能な社会への参画意識増	職業選択における「生き甲斐」重視 就職志向の多様化 有給取得率向上 育休・介休取得スタンダードに
	労働構造	非正社員率上昇 賃金上昇しにくく マネジメント層の固定化	在宅・ネットワーク労働増加 ITスキル上昇	国内労働者の多国籍化 日本企業の海外進出 海外での就職増加 「年度」の多様化 地元就職増加	Uターン・Iターン傾向 「第6次産業」の雇用増加	定年延長続く 団塊世代「総介護」社会 社会保障負担増加 生活保護世帯の増加	サマータイム労働化	長時間労働抑制へ ワークシェアリング加速 女性労働者・役員の増加
産業・企業	産業・企業	接客力も競争へ 業態専門特化加速 「第三の視点」から新サービス 「訳あり」商品	情報・財の共有化 顧客とのダイレクトコミュニケーション（SNSマーケティング） ICカード・ポイント加速 組織の決定プロセスに先んじた行動増加	国際競争力低下 大から小へコンパクト化 アジア富裕層取り込みとBOP戦略 コンテンツ輸出加速 安全性の確保が課題	「地域独自型消費」拡散 郊外施設巨大化と都市専門化 生産・情報拠点分散によるリスク回避	「来てもらう」から「出向く」へ シニア消費に的 「お一人様」シフト続く	脱原発志向・代替エネルギー技術革新 EV化加速 既存システムからの脱却志向	営業日・営業時間縮小傾向 （深夜営業・休日営業の縮小） ビジネスアワー多様化

	観光関連 産業	日本型旅行文化とサービス海外へ 空港の役割多様化 ハード・ソフト二極化 半宿、半 x 業態の増加	ネットとリアルの二極化加速 申し込みの間際化加速 ヴァーチャルリアリティー・拡張 現実技術との融合	高速バス・LCC 利用増加による人 的交流拡大 交通機関のイールド志向加速 (JR・航空) IR (カジノを含む統合型リゾー ト) 開設	人的移動増加 「ご当地もの」加速 復興・再生・地域活性化観光の進展	シニア向け商品開発と取り込み ホテルから介護ビジネスへ転換 一人向け・オーダーメイドのサー ビス強化 「交流」「場づくり」重視	「ゆっくり旅」(船旅・鉄道)の復権 観光の「第6次産業」化 ソーシャルビジネス化	長期滞在型拡大 スポーツ・健康を切り口とした 観光振興
--	------------	---	--	---	---	---	--	-----------------------------------